物流ニッポン　2026年10月27日付10面

自走位置 スマホで把握

北海道車輌運送

報奨制度にデジタコ活用

車両の輸送や一般雑貨の輸送などを手がける北海道車輌運送（小泉直啓社長、札幌市北区）は、スマートフォンのアプリで自走業務時の車両の位置情報などを把握できるシステムや、デジタルタコグラフを活用したドライバーへのインセンティブ制度を採り入れ、安全性の向上と業務効率化を図っている。

同社では、キャリアカーによる車両運搬に加え、キャリアカーに積載できない大型車両や特殊車両の自走による運搬を行っている。通常、自走する車両にはデジタコなどを取り付けられないため、位置情報や詳細な走行データを把握するのが難しい。

こうした課題に対応するため、キャリオット（中江瑛亮社長、東京都渋谷区）が提供するAI車両管理ポータル「Cariot（キャリオット）」を活用している。同システムでは、ドライバーのスマホにアプリを入れることで、位置情報や速度、出発・到着時間、帰路の公共交通機関の利用状況などを把握できる。これにより、自走業務の可視化が進み、運送効率の向上や適切な運行管理につながった。



キャリオットの管理画面を確認する社員

一方で、自社の全車両にデジタコを導入しており、9月からそのデータを活用し「スピード」「急加速・急減速」「走行時間」「アイドリング」について、1カ月ごとに100点満点で評価する制度を開始した。満点を獲得したドライバーには報奨金を支給することで、安全意識の定着とモチベーション向上を図っている。

このほか、勤怠管理や経理、点呼業務などもデジタル化。給与明細の電子化や稟議・承認のPDF化など、ペーパーレスにも取り組んでいる。

小泉社長は「今年は創業70年を迎える節目の年。3月にはDX認定も取得した。こうした取り組みをさらに進め、100年企業へ進化したい」と話している。

（高清水彩）